

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									3.8
Q1 室内環境					0.40		-		3.7
1 音環境				3.0	0.15	2.9	1.00		2.9
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.50	3.0	0.50		
1.2 遮音				3.0	0.50	2.8	0.50		
1 開口部遮音性能				3.0	1.00	3.0	0.30		
2 界壁遮音性能					-	3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-	1.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		住:Lr-50			-	4.0	0.20		
1.3 吸音					-		-		
2 温熱環境				2.2	0.35	4.0	1.00		3.7
2.1 室温制御				2.2	0.50	4.0	1.00		
1 室温				3.0	0.63	-	-		
2 外皮性能		日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級4相当」		1.0	0.38	4.0	1.00		
3 ゾーン別制御性					-		-		
2.2 湿度制御				1.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式				3.0	0.30	-	-		
3 光・視環境				3.0	0.25	3.2	1.00		3.2
3.1 昼光利用				4.2	0.30	2.5	0.50		
1 昼光率		共:5.072%		5.0	0.60	2.0	0.50		
2 方位別開口					-	3.0	0.30		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	0.20		
3.2 グレア対策				2.0	0.30	4.0	0.50		
1 昼光制御		カーテン・庇(バルコニー)の2種類の組合せで制御		2.0	1.00	4.0	1.00		
3.3 照度				3.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御				3.0	0.25	-	-		
4 空気質環境				4.2	0.25	4.7	1.00		4.6
4.1 発生源対策				5.0	0.60	5.0	0.63		
1 化学汚染物質		建築材料はJIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用しホルムアルデヒド以外のVOCにおいても放散量が少ない建材を全面的に採用		5.0	1.00	5.0	1.00		
4.2 換気				3.0	0.40	4.3	0.38		
1 換気量		建築基準法を満たす換気量の1.4倍		3.0	0.50	5.0	0.33		
2 自然換気性能		居室面積の1/6以上の開閉可能な窓の確保			-	5.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理					-		-		
1 CO ₂ の監視					-		-		
2 喫煙の制御					-		-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		3.5
1 機能性				3.2	0.40	4.4	1.00		4.2
1.1 機能性・使いやすさ				4.0	0.40	5.0	0.60		
1 広さ・収納性					-		-		
2 高度情報通信設備対応		Gbitクラスのブロードバンド利用可能			-	5.0	1.00		
3 バリアフリー計画		バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準(最低限のレベル)満足		4.0	1.00		-		
1.2 心理性・快適性				1.0	0.30	3.5	0.40		
1 広さ感・景観					-	3.0	0.50		
2 リフレッシュスペース					-		-		
3 内装計画		・内装の段階でコンセプトを反映させる取り組み(広い玄関) ・建物に求められている機能が明確化(ゆとりのある居住空間を確保) ・インテリアパースによる内装計画の事前検討		1.0	1.00	4.0	0.50		
1.3 維持管理				4.5	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計		・壁面・床面は汚れにくい仕上げとしている ・エントランス床面の水洗浄可 ・仕上げに大きく維持管理方法が異なる仕上げ無し ・外部に露出する金属部分にSUS等を使用 ・水切りを効果的に設置		4.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保		・清掃資材の保管スペース確保 ・清掃資材の洗い場を設置し安全な排水経路確保 ・水を使用し清掃する箇所(ゴミ置き場)に2/100程度の勾配確保 ・廃棄物スペースの確保 ・屋外共用廊下に清掃を想定した電源の確保 ・高所の維持管理作業を安全に行える設計 ・各排水トラップは、取り外し可能 ・バルブ等の日常的な調整を容易に行える設計 ・天井点検口600mm×600mm ・専有部以外の諸設備は共用部で維持管理可能		5.0	0.50		-		
2 耐用性・信頼性				3.2	0.30	-	-		3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-		

	2	免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2	部品・部材の耐用年数			3.7	0.30	-	-	
	1	躯体材料の耐用年数	日本住宅性能表示基準 劣化の軽減に関する事等級3相当	5.0	0.20	-	-	
	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-	
	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	LDK:床フローリングt12,壁ビニールクロス(PBt12.5),天井ビニールクロス(PBt9.5)	4.0	0.10	-	-	
	4	空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
	5	空調・給排水配管の更新必要間隔	給水PEP(B)、汚水排水VP(B)、雑排水VP(B)、Eは不使用	5.0	0.20	-	-	
	6	主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4	信頼性			3.4	0.20	-	-	
	1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
	3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法	耐震クラスA	4.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備	光ケーブルの引込、ケーブルTVによる災害情報入手、精密機械の地下空間の設置を避けている	4.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.4	0.30	3.0	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり					3.0	0.50	
1	階高のゆとり		-	-	3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		-	-	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.4	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	天井転がし配線、壁LGS工法により更新・修繕が可能	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	天井転がし配線、壁LGS工法により更新・修繕が可能	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	4.1
1 生物環境の保全と創出		生物環境の保全と創出に関して配慮されており、比較的多くの取組が行われている、外構緑化指数:50%以上	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		周辺のまちなみ・景観に対して標準以上の配慮がされている	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.5	0.30	-	-	4.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		地域性・アメニティへの配慮に関して十分な取り組みがされている	5.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		中・高木の水平投影面積率:10%以上20%未満 緑被率、水被率、中高木の水平投影面積率の合計:30.%以上	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	4.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.5
1 建物外皮の熱負荷抑制		日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級4相当」	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.72 LED照明設備	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			4.5	0.20	-	-	4.5
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
集合住宅の評価			4.5	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	電力の消費量の表示機能ある機器を採用	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	設備毎の取扱説明書が居住者に手渡され、個別の建物・生活スタイルごとに対応した適切な説明が住まい手になされている。	5.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.9
1 水資源保護			4.0	0.20	-	-	4.0
1.1 節水		水栓に水優先吐水機能(節湯C1)、節水型便器を採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			4.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水排水利用システムの導入有	4.0	1.00	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.8	0.60	-	-	3.8
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		「舗装ブロック・外構材、ビニル系床材・内装床材(グリーン購入特定調達品)/ビニル床材・内装床材(エコマーク認定品)」	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体+軽鉄+仕上材のデテイルを採用している	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.3	0.20	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		化学物質排出把握促進法の対象物質を含有しない建材種別が4つある	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0.01未満かつGWPが低い発泡剤(GWP(100年値)が50未満)を用いた断熱材を使用	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.6
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出率73%	4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮			3.6	0.33	-	-	3.6
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		隣棟間隔指標Rw=0.5以上、地表面対策面積率=45%以上	4.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐輪場(バイク置場含む)、駐車場及び管理用車両の駐車施設を確保	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	廃棄物処理負荷抑制に対する取組が標準以上	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	

3.3	2	砂塵の抑制	光害対策ガイドラインのチェックリストの項目の過半を満たし、広告物 照明がない	1.0	-	-	-
	3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-
	3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		5.0	0.70	-	-
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-